

税金を、すべての人のために。

飯田市立飯田東中学校3年 下平 彩葵

「税金」と聞いて思いつくもの。消費税、酒税、自動車税…。これらの税金は私たちの身近で役立っている。その税金の大切さを教えてくれたのは父だった。

私の父は公務員だ。いつも市役所へ仕事をするために出かけている。そんな父が税の作文を書こうとしていた私に言った。

「税金は、正しく使われなければ意味がなくなってしまう。」

父は昔、税務課にいたそうで、そこで税金について多くのことを学んだという。市役所で扱う税金の大部分は、市民から集められた市民のためのお金であり、間違った使い方は決して許されない。

税金について父からこうした話を聞いていて、私はふと、家の近くで行われていた道路の拡張工事が頭で思い浮かんだ。父いわく、これにも税金が使われていたらしい。私は驚いた。あの工事現場にも、税金が使われていたのか、と。

この他にも、税金は色々な場所で実は活躍していた、ということを知った。例えば、私の通う中学校。税金があるからこそ、お金をかけずに学校へ通えて、教科書を無料でもらえる。そして、勉強ができる。また、病院でも税金のおかげで、安く診察をしてもらったり治療を受けたりすることができるのだ。私たちから集められたお金が私たちのために使われ、役立っている。税金は、暮らしを支えてくれているありがたい存在だということがよく分かった。

では、税金がなければどうなるのか。父はそのことも話してくれた。日本中の多くの子どもが学校に通えず、子どもでも働いてお金を稼ぐ必要が出てくるかもしれないという。もしも自分がその身になってしまったら。そのことを考えると、怖くなる。中学生の自分に、本当に大人と同じようなことができるのだろうか。さらに、病院でも何万円と高いお金をかけなければならなかったり、普通私たちが乗っている車が通る道路も、それ自体が建設されなかったりするということだ。税金がなければ、私たちの「日常」が消える。その「日常」をつくる税金を、父が懸命に管理してくれていたと思うと、感謝の気持ちでいっぱいになる。父にとって税金は、市民のためという、重い存在だったのだ。

この作文を通して、税金の重要性や、父のような人の思いを知ることができた。そして、未来へ向かう今こそ、税金についてもっと学ぶべきだと思うようになった。私は大人になったら、必ず税金を納められるようにしたいと思う。その時になったら、この二つのことは忘れないでおきたい。

税金の正しい使い道を考えてくれている人がいること。そして、「税金は、すべての人のためにある」ということを。